

# 下村木児童公園マネジメントプラン（概要版）

本江地区公園利用推進協議会

## <公園の概要>

面積：1,715㎡ 所在地：下村木3522外  
 公園種別：街区公園 用途地域：第一種住居地域  
 避難所：指定緊急避難場所（一次避難所）  
 主な施設：遊具（砂場、ブランコ、滑り台）、ベンチ、時計  
 トイレ（男子、女子、多目的）、水飲み器、照明

## <利用状況（意見）>

- ・利用者は少ない。
- ・児童のラジオ体操で利用（夏休み）

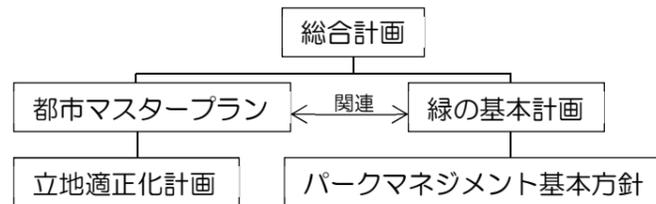
## <問題点>

- ・遊具数が少ないため、子供がすぐに飽きる。
- ・蟻が多いため、砂場は使えない。
- ・北側には柵と生垣が多重に配置され、閉鎖的な印象。
- ・柵が低いため、ボール遊びには不安を感じる。
- ・広場の水はけが悪い。
- ・ベンチが日陰にないため、休息するには配置が不適切。

## 魚津市パークマネジメント基本方針（R1.7月策定）

基本理念 「公園で地域の魅力と価値を高める」

目指す公園像 ・人々が集い、つながりを生む公園  
 ・地域の愛着と誇りを育てる公園



【今後の公園の整備、運営にあたって重視すべき基本的な視点】



## 【機能の再編】

○みんなが使いやすい公園になるように、役割を「みなおす」。



- R3.6月 第1回 趣旨説明、公園の現状、将来目指すべき姿について（意見聴取）
- 7月 第2回 公園毎の機能再編・分担の検討
- 10月 第3回 公園毎の目指すべき姿(将来像)、機能再編方針の設定  
施設毎の維持管理・改修整備方針の検討
- 12月 公園別マネジメントプラン記載内容の確認（書面）
- R4.1月 公園別マネジメントプラン修正等

公園の目指すべき姿 「ボール空間のある、まちなかの憩いの公園」（将来像）

## 機能再編方針

公園の目指すべき姿を実現するため、近隣の街区公園との機能分担により、当公園の山側のスペースは「軽い運動」、海側のスペースは「休養」を主な機能として施設の再編を図る方針とします。

既設遊具の「遊び」の機能は、将来的に近隣の他公園へその機能を集約し、公園前面の幹線道路から、利用者が運動している様子や住民が憩う様子を見かけることができる、地域の賑わいと暮らしやすさを示すスペースとしてふさわしい空間を目指します。

## 公園施設毎の方針

- 遊具：点検で使用継続が困難と判断されるまでは「維持」。将来的には他公園へ機能集約。
- 植栽：道路からの見通しを妨げているため、北側の生垣はフェンスへの更新を検討。
- トイレ：現状のまま当面維持とする。
- 水飲み器：バリアフリー対応型への更新検討。
- ベンチ：日よけ・あずまや新設に併せ、仕様や適切な配置を検討する。
- 広場：水はけの改善を考慮しつつ、軽いボール遊びができるスペースとして再整備を図る。
- 外柵：防球対策を考慮し、広場の再整備に併せて一部の高上げを検討する。

## 今後の取組・課題など

- ・再整備へ向けた実施設計
- ・周辺環境などの変化に応じたプランの見直し
- ・利用状況の把握、公園利用ルールの検討、多様な主体との連携手法の検討など

## 公園の持つ機能の分類

機能	施設の例など
① 遊び	複合遊具、単体遊具、砂場 ボール遊び等自由に遊べる広場
② 休養	ベンチ、あずまや、水飲み場、ピクニック広場、野外卓 開放的な植栽、緑陰
③ コミュニティ	地域活動・市民活動の場 (花壇づくり、市民農園、イベントスペース)
④ 健康づくり	ジョギングやウォーキングに適した園路、腹筋運動のできるベンチ 背伸ばし・ぶら下がり運動のできる健康遊具
⑤ スポーツ	バスケットゴール、ゲートボール場、フットサル場 スケートボード場
⑥ 防災	生垣や燃えにくい樹種の植栽、非常時に「かまど」になるベンチ マンホールトイレ、非常時にテントになるパーゴラ、防災倉庫
⑦ 自然	大規模な樹林や水路、ビオトープ 自然に触れられる散策路
⑧ 景観の形成	象徴的な都市空間や良好な街並みの形成、地域固有の景観保全・活用 (四季を感じる花木、ケヤキ並木、シンボルツリー、歴史施設関連)
⑨ 環境の保全	生物多様性の確保、ヒートアイランド現象の緩和、地域固有種の保全 (自然観察園、緑道、〇〇の森)

(再編イメージ案)

